

# 新庄をもっと元気に!

新庄市長(山形県) **山尾順紀**

*Junki Yamao*

マイ  
プライベート  
タイム

## 軟式庭球・ソフトテニスから 学んだこと

中学2年の県中学総団体準決勝。1対1の後の3番手勝負の大事な試合。あと1本で決勝進出が決まるマッチポイントが絶好のスマッシュボール。おもいつきり相手コートに打ちこんだ瞬間、勝ったと思ったら、相手が顔を隠すようにあげたラケットにワンバウンドで当たり、ボールは私の頭越しにふらふらと飛んできた。アウトと思いきや風に流され、われわれのコートのサイドラインめがけて落ちてくる。後衛は慌てて追いかけたが間に合わず、マッチを逃す。この後リズムが崩れて逆転され、決勝進出の願いは叶いませんでした。

この敗戦が、ソフトテニスと私の葛藤の始まりでした。1本の重さ、1本の大切さは、練習や試合で常に意識するようにな

り、勝負の妙を教えられ、仲間との出会いもあり、私の人生観も培われました。その恩返しというわけではありませんが、人の役に立つ人間になろうという思いを強く持つようになりました。

私は、地元に戻って後輩をなんとか全国大会に出場させたいという夢を持っていました。大学を卒業して地元の新庄市役所に採用され、空き時間を見つけては母校に通って指導をしていました。久々の全国大会出場選手が育ち始めたころ、実は指導をしているつもりが逆に生徒から多くのことを学んでいることに気づき、「教えることは学ぶこと」を実感させられました。

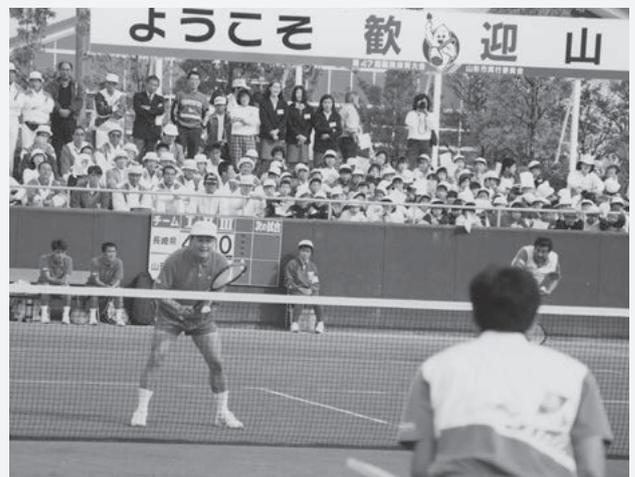
また、ダブルスで勝てない時は、パートナーのせいにして自分のことを棚に上げるような未熟さがありました。「自分と組んでくれるパートナーがいる」という、そのこと自体がどんなに凄(すご)いことなのかということも教えられました。このよう

なことから、一見無駄なように見えても、無駄に無駄はなく、そして自分の周りにあるすべてが教材でありお手本であるという考え方を身に付けることができました。

## 新庄はかなりそばである

平成11年に山形新幹線が新庄まで延伸されたときのキャッチコピーが「新庄はかなりそばである」

でした。東京にかなり近くなったという意味と新庄の美味しいそばを掛けたものです。毎年11月の第1日曜日に「新庄そばまつり」を開催して6回を数えました。私は子どものころからそばが大好きで、どこに行ってもその土地のそばを食していました。平成元年に生涯学習センターが完成し、料理教室で手打ちそば教室を企画しました。私もそばで見ていて、自分でも打ってみたいという思いから、以来20数年が経ちます。打ち始めのころは、美味しいかも分からないそばを「美味しいだろう」と家族に押し売りしていました。初めは市販の汁でしたが、時が経つにつれ、汁も自分でかえしをつくり、だし汁と合わせて常備するまでになりました。防腐剤や化



平成4年べにばな国体で選手としてプレーする筆者



2009年に重要無形民俗文化財にも指定された「新庄まつり」

学調味料の入っていない汁に慣れ親しんだためか、子どもたちもそば屋に行つての味の評価は、私の汁が基準となっているようです。

さて、新庄で採れる「最上早生<sup>もがみわせ</sup>」という品種は、香りと甘みが強い美味しいそば粉です。減反政策で、転作そばの作付けが多くなったものの、補助金対策で収穫をしない捨て作りが多い状態でした。これを何とか粉にして付加価値を上げたいという思いから、「そばまつりをやろう」と市内のそば打ち愛好家を口説いて始めました。職員提案で「新庄そばガールズ」を結成し、各地に出前宣伝に行くとともに、まつり当日は新庄そば音頭に合わせた踊りを披露して会場を盛り上げてい



来場者にそば打ちの実演をする筆者

す。そばガールズは、市・農協・農業大学校のほか一般公募し、今年14名で結成しました。私はといえば、まつり会場です。そば打ち実演をしながら、来場していただいた皆さんとそば談義をしています。

### 「まじりと雪のふるさと」新庄

「まつりと雪のふるさと」このキャッチコピーは、新庄市の特徴を端的に表現するとどうなるだろうと、30年前に同僚との話し合いの中から生まれました。まつりとは「新庄まつり」です。雪とは、豪雪地帯で良くも悪くも雪を受け入れながら暮らさなければならぬことを意味しています。新庄まつりは、平成27年に260年の節目を迎えた新庄の宝です。平成21年に国の重要無形民俗文化財に指定され、さらに平成28年には、全国の山・鉾・屋台の祭り33団体がユネスコ無形文化遺産登録の審査対象となっています。市民の期待も大きく、登録されればまちの活性化にもつながります。

新庄の「まつり」には、このほか、春の「かど焼きまつり」があります。4月末からの連休中に旧城内の広場で、かど（にしん）を焼いて食べるまつりで、新庄の春の風物詩となっています。夏は「新庄まつり」、秋には「味覚まつり」、そして「そばまつり」、冬には、青年会議所主催の「新庄雪まつり」で雪国の子どもたちに夢を与えています。また、民話の宝庫でもある

ことから「みちのく民話まつり」も30回を数え、全国から民話ファンが集まります。毎年の総会では、私の民話披露が祝辞代わりとなっています。レパートリーは6話程度しかありませんが、今後増やしていきたいと思っています。

最後になりますが、私のもうひとつの顔が住職で、夏祭りに合わせて「子ども・夢・花火大会」を開催してから10回を数えました。町内の皆さんの協力をいただきながら、協賛も行政の力を借りずすべて手作りで行っています。小さな花火大会で約40分と短いですが、連続して上がり、特にラストの特ダスターメインは約3分間連続して上がるので市民にとっても喜ばれています。

「新庄をもっと元気に！」が私の使命です。



昨年「260年祭」を迎えた「新庄まつり」